

6 - (1) 水産情報発信事業

石原 幸雄

目的

鳥取県沖合域の水温状況や漁獲される魚の資源状況及び試験研究成果を、水産関係者等にわかりやすく大型ポスターなどにより情報提供を行う。

方法

(1) 大型ポスター

海洋観測結果、試験研究成果、各種お知らせについて、漁業協同組合及び県関係施設に大型ポスターである「魚取新報」を掲示した。

(2) ファクシミリ及びホームページ

水揚げ情報、水温分布図、試験操業情報、漁況情報等をファクシミリ及びホームページ等で情報提供した。また、沿岸潮流観測ブイの観測結果については、電子メール、ホームページ、電話応答サービスにより提供した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの他県の漁模様及びスルメイカの境港における水揚げ状況を電話で案内した。

(4) 連絡会議、報告会等

海況及び浮魚類、底魚類、イカ類の漁況並びに今後の動向について境港漁海況連絡会議を年2回(12月、3月)に開催した。マアジ及びクロマグロの資源状況等について7月に報告会を行なった。

(5) レポート

1年間の海洋環境、水産資源、試験研究結果をわかりやすくした「海洋環境・水産資源レポート」を作成を行なった。

結果

(1) 大型ポスター

県内各漁協(支所)22箇所、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然科学館1箇所、鳥取県庁2箇所、とっとり賀露かっこ館1箇所、西部総合事務所(西部県民局)1箇所、夢みなとタワー1箇所、水産試験場1箇所、栽培漁業センター1箇所、境港水産物直売センター1箇所、境港水産物地方卸売市場3箇所に海況情報等を月1回掲示した。

また、第6回境港まぐろ感謝祭(6月26日)で

は、クロマグロについてのパネル、耳石や卵の標本などの展示を行った。境港水産祭り(10月9日)では、鳥取県産ハタハタの美味しさ説明展示、焼き干しハタハタの試食を行った。

9月17日に第5回目の水産試験場の一日開放日として「海と魚の学習日」を開催し、白いかの干物作り教室、ズワイガニタッチング、スラリーアイス体験、第一鳥取丸見学などを行い191名の来場者があった。

(2) ファクシミリ及びホームページ

境港におけるまき網及びスルメイカの水揚げ情報、栽培漁業センター取水口における水温、御崎沖沿岸潮流観測ブイによる表面水温観測については、旬ごとに県内漁協、各県水試、新聞社、水産研究所等91カ所にファクシミリで配布した。海洋観測結果、試験船調査速報、境港の漁獲量や市場調査状況、水温等適時水産関係者等にファクシミリにより配信した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの長崎県・兵庫県漁模様及びスルメイカの境港の水揚げ状況について週2回電話応答案内サービス(電話 0859-45-4505)の更新を行った。また、県内2箇所(酒津・御崎沖)に設置した沿岸潮流観測ブイの観測結果を案内した。

(4) 連絡会議、報告会等

12月13日(第一回)及び平成29年3月23日(第二回)にまき網、イカ釣、沖合底びき網、ベニズワイかにかご漁業を対象とした境港地区漁海況連絡会議を開催した。7月28日にマアジ新規加入量およびクロマグロの資源状況について報告会を境港で開催した。また、沿岸イカ釣りの今後の見通し及び活イカ技術について平成29年4月11日に鳥取県漁協網代港支所において、岩美地区のイカ釣り漁業者を対象に説明会を開催した。

(5) レポート

平成27年の海洋環境と水産資源の状況や水産試験場の一年間の試験研究結果をわかりやすく説明した「海洋環境・水産資源レポート」を平成28年5月に作成し、ホームページに掲載するとともに水産関係機関等に配布した。